

『キリストにあるあたりまえ』 ルカ15:1-7

15:1 さて、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄ってきた。

15:2 するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った。

15:3 そこでイエスは彼らに、この譬をお話しになった、

15:4 「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

15:5 そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、

15:6 家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うであろう。

15:7 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。

○序論

明日は、1月の第3月曜日、アメリカでは全での州で祝日、Martin Luther King Jr. Day つまり「マーティン・ルーサー・キング牧師の日」というそうです。

キング牧師は、公民権運動のリーダーとして黒人の人権を1950年代から1960年代にかけて運動をおこし、黒人や他の少数民族が人種差別を撤廃し、公民権を保障することを求め、その実現へと「非暴力」による抵抗運動を導いた人でした。

その功績により、1964年のノーベル平和賞も受賞しています。

さて、今では、公民権（人権）は当たり前のことですが、キング牧師の時代では、全く違う「あたりまえ」がその時代にはありました。

調べてみました。そんな当時の教会での聖餐は、どのように持たれていたのか。

当時の多くの白人教会では黒人信徒が礼拝や聖餐式に参加することが禁じられ、または極めて制限された形でしか許されませんでした。

...

キング牧師は、聖餐式を「平等」と「一致」の象徴とみなしていました。彼にとって、聖餐式は人種や階級、性別を超えた「神の家族」としての交わりを示すものでした。

それは、わたしたちが礼拝の中で、読み上げる式文の一節の通りです。

「この聖餐は、私たちが主の愛のうちに一つであることをあらわすものです」。今日、この”あたりまえ”というもののに気づくことの大切さを覚えましょう。

○本論

I. 失われた人を思うイエスさま

15:1 さて、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄ってきた。

15:2 するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った。

人を指さして、「罪人」と呼び、敬遠する文化が、このユダヤの社会にありました。

それは、現代のわたしたちの身近にもあるかもしれません。

ここで、イエスさまは、この罪人呼ばれる人たちと、親しく食事を共にしておられたのです。当然のことながら、そこには周囲の人たちからの批判もありました。

それに対して、イエスさまは、「群れを迷いでた一匹の羊」にたとえを語られたのです。

そして、イエスさまが語るそのいなくなった羊に対しての思いは、「心配で心配で…」という思いです。それがイエスさまのあたりまえの思いでした。

15:4 「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

この譬えで一番印象的なのは、百匹のうち、ただ一匹がいなくなった。けれども、そこで当たり前のように、羊飼いはその一匹のために”行動を起こした”ということです。

それは、まさにわたしたちを救うために、人となられた神の御子イエス・キリストの姿でした。

わたしはどうだろう？ そこまで人のことを思うことができるだろうか。

今、イエスさまの思いに心を向けて、自分の思いを点検できれば感謝です。

## Ⅱ. 失われた人を捜すイエスさま

細川ガラシャ夫人

彼女はキリスト教の教えを耳にしました。

その最初に聞いた教えの一端というのが、「神さまは、いかなる時にも、愛と慈悲の心で見守っている。神の前では何人も平等である」というものでした。

当時の人たちは驚きを持ってその教えを聞きました。

あの子のガラシャ夫人も、「なんと大それた教えだ。神さまの前では、秀吉様も、農民もみな同じだというのですか？」と漏らしたと言います。

彼女自身、自分が謀反人の娘で、大罪人の子であるという罪責感の中にありました。

彼女福音を聞くことにより、救われていき、いわゆる洗礼名にガラシャ(神の恵み)という名前を持って呼ばれるようになったのです。

今日、私たちがイエスさまを通して聞いている福音のメッセージは、神さまがわたしたちを、一生懸命求め、救われほしい、見いだしたいと願っているということなのです。

さて今日、神さまが見つめておられるのは、「ひとり」だということです。ひとりひとりが大切に見られているということです。

数字の世界では、99匹の方が、たった1匹よりも価値があると考えます。

しかし、神さまは、その見失われた一匹の存在が、迷いせずにいる99匹にまさるほど大切だと語る。それが神さまの熱意ある思いなのです。

一人を見つめると、目をそむけたくなるような罪ばかり見えてくるかもしれませんが。けれどもイエスさまは、その一人、わたしのすべてを知ったうえで、ご自身をささげてくださったのです。わたしたちはそこに神さまの限りない恵みを知ることができます。

ロマ5:8 「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。」

### Ⅲ. 見出された人を喜ぶイエスさま

15:5 そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、

15:6 家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。

ここに羊飼いの喜びにたとえられた、神さまの喜びとその喜びへの招きがあります。「わたしと一緒に喜んでください」と。

神の救いのわざの喜びを示し、わたしたちを招いてくださいます。

15:7 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。

先ほども申し上げました。一人の人を見つめ、より深く見る時、そこには見たくなかった醜い罪のありさまが見えてくるかもしれません。

だからこそ、その一人の救いが、何よりも大切なのです。そしてその救いは、イエスさまにとって、神さまにとって大きな喜びであると言われるのです。

そして気づくのです。あの人も、そして何よりわたしも、イエスさまに喜ばれていると。

わたしも、そしてあなたも、神さまに愛されているのです。

聖書は、わたしたちにそのことをしっかり受け止めてほしいと語ります。

わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。

世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

(2ヨハネ3:1)

わたしは、天の父なる神さま。お父さん！と呼び求めながら祈ることが大好きです。それは、「父を知らなければ」できないことで、わたしはその父を知っているから

です。 そうして私をどれほど愛してくださっているか、を想うことができるのです。

### ○さいごに

今日紹介したキング牧師の、有名なメッセージを皆さんもご存じでしょう。

「I have a dream」、「わたしには夢がある」というメッセージです。

「わたしには夢がある。いつの日か、この国が立ち上がり、『すべての人間は平等に創られた』という信条の真の意味を実現するという夢が。」

「わたしには夢がある。いつの日か、ジョージア州の赤い丘の上で、元奴隷の子孫と元奴隷所有者の子孫が兄弟として同じテーブルに座ることができるという夢が。」

「わたしには夢がある。いつの日か、私の四人の子どもたちが、肌の色ではなく、その人格によって評価される国に住むことができるという夢が。」

「わたしには夢がある。いつの日か、不正義と圧政で熱気に包まれたミシシッピ州さえも、自由と正義のオアシスに変わるという夢が。」

彼は夢、ビジョンを語りました。それは、自分の生涯をかけても成し遂げることができないかもしれないけれども、いつの日か、実現すると信じて。

キリスト教会の一牧師として、イエス・キリストのあたりまえの思いを心に、語りだしたものです。

そして、そのときにこういう歌が歌われたと言います。（賛美歌第二編にも収録）

We shall overcome! We shall overcome,

We shall overcome some day | わたしたちはいつの日か克服する

Oh deep in my heart, I do believe | 心から、わたしは信じる

That we shall overcome some day

そこには夢が、ビジョンが歌われています。

わたしたちはこの日本で、この教会から、どんなビジョンを掲げるのでしょうか？

改めてイエスさまの言葉を聴いてください。

15:7 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。

ここにイエスさまが示されたビジョンがあります。そこに喜びがあると！

あなたの心にかかる人は誰でしょう？ あなたが祈るべき人はどこにいますでしょう。その日、その救いの日、天において、そしてわたしたちの中に大きな喜びがあることを思い見て、主よその人に福音を語る力を祝福をください…、と祈りましょう。